



「医療」もノートの重要項目で、自分の希望を明示しておく人が増えるのは大歓迎。ところが少し意外な調査結果が出ている。

## 「必要感じるが…」が半数

### 終末期の「希望決定」、経産省調査

経産省が昨年行った「ライフエンディング・ステージ国民意識調査」の報告書。人生の終末や死別に備えるステージに向けて、国民の事前準備の具合を探る調査で、約4200人が答えた。

幾つかの調査項目から2つを紹介する。

#### Q エンディングノート作成経験と意向

- |   |          |     |
|---|----------|-----|
| A | すでに書いてある | 2%  |
|   | いずれ書くつもり | 41% |
|   | 考えていない   | 27% |
|   | 書くつもりはない | 30% |

#### Q 終末期医療の希望を決めておく

- |   |             |     |
|---|-------------|-----|
| A | すでに決めた      | 8%  |
|   | 現在準備中       | 5%  |
|   | そう感じるがしていない | 47% |
|   | 準備すべきとも感じない | 15% |
|   | わからない       | 25% |

「エンディングノート」が何十万部も売れ、人生の最終章に備えて自分の希望や決意を表明しておくことが広がっている。「終末期

発売2年で25万部売れた某出版社のエンディングノートが話題になるほど、ノートの認知度は60%が高い。しかし、実際作成した人は2%で、まだ「作成」にまで結びついていない。

「終末期医療の希望」も気持ちが行動に結びつくかがポイント。「すでに決めた」「準備中」が13%という数値は、「比較的高い」と報告書は評価している。一方、「そう感じているが、していない」とする人が半数近くいることに協会は注目したい。リビングウイルや協会の存在を理解している人たちである。

経産省がこうした調査をするのは、ライフエンディング産業育成のためとか。

こうした国民の意向が実際の医療でどう行動に結びついているだろうか。昨年暮れ、NHKニュースが「終末期医療の希望を記録で残している人は12%」と伝えていた。

東京都健康長寿医療センターが昨年3月、通院患者約970人を対象に「終末期医療の希望」調査を行った。

## 「希望を記録」12%と低い

### 東京都健康長寿医療センター

希望について「家族や友人と話しあったことがあるか」という間に、「話し合ったことがある」44%、「ない」48%とほぼ分かれた。その一方で、希望する内容を文書など「記録に残している」人は12%にとどまり、「残していない」が78%と大半だった。

調査に当たった老年医学が専門で、同センター副所長の高橋龍太郎医師は「客観的な記録があった方が医師も親族もはっきりと認識でき、希望を尊重することにつながる」(NHK Webサイトより)と話していた。

### 住所変更について

会員への郵便物が「転居先不明」で戻る例が増えています。住所の変更は、本部事務局へ電話か、郵便、FAXで会員番号を記入し、ご連絡ください。

お知らせ

### 会員証・宣言書の再発行について

紛失、破損した場合、無料で再発行いたします。大切なもののため、再発行請求は郵便、TEL・FAX等で会員番号を記入してご請求ください。